（第1号様式）

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット®認証申請書

2024年11月22日

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 御中

（代表申請者）横須賀市
住所：神奈川県横須賀市小川町11番地
氏名：市長 上地 克明 ㊞
法人番号：3000020142018

（共同申請者）長井町漁業協同組合
住所：横須賀市長井町５丁目２４番６号
氏名：組合長 小澤 紳一郎 ㊞
法人番号：3021005007463

（共同申請者）一般社団法人BlueArch
住所：東京都大田区大森東２丁目３０－１９－１０４
氏名：代表理事 武藤 素輝 ㊞
法人番号：3010805003111

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	横須賀みんなの海プロジェクト～海の幸を守る、育む、つなげる～

プロジェクト区分 （複数選択可）	自然基盤 吸収源の回復、維持、劣化抑制
プロジェクト情報	横須賀市長井町地先は、過去にカジメ場が多く広がり、アワビやサザエなどの磯根資源を育む豊かな海域であった。しかしながら、2012 年ころから藻場の衰退が見られ、2015年ごろから磯焼けが顕著に、そして 2020 年には当該地先の藻場はほとんど消失した。 2013 年以降、長井町漁業協同組合(以下、「長井町漁協」)では長井町漁協地区食害生物除去活動組織を立ち上げ、磯焼けの原因である食害生物のアイゴやガンガゼの除去、岩盤清掃等の藻場の保全・再生活動に取り組んでいる。駆除した生物は、タコ漁のエサとしたり、近隣の小中学校での理科の実験用として提供するなど、漁業のなかで、また地域との活動として、無駄にしないよう活用している。【水産多面的機能発揮対策事業】 また、食害対策に加え、2021 年からミニストーン(藻礁ブロック)の設置等による藻場造成活動を行うとともに、食害に対する研究として、藻礁ブロックを覆うカゴの有無別にも観察することで、当該地区に効果的な手法を検討してきた。【漁業活性化推進事業】(※横須賀市独自の補助事業) この他にも、当該地区では、近隣の県立海洋科学高校と連携したアワビの種苗生産や、水産研究・教育機構との連携によるカジメの生育実験などに取り組むなど、長井町漁協を中心として海洋環境問題に積極的な地域である。 一方横須賀市では、水産振興の観点から、長井町漁協の上記の活動を支援している。また市内には海洋分野の研究機関や企業などが多く存在する。その特性を生かし、子どもたちが海の仕事を体験できる体験型プログラム「横須賀海洋クラブ」を毎年開催し、海洋教育の推進に積極的に取り組んでいる。今年度は一般社団法人BlueArchの協力により、ブルーカーボンをテーマとする中高生向けの海洋STEAM教育プログラムとして、磯焼けの現状を目で見て、海藻類の生態系やモニタリングについて学習するプログラムを実施した。 地球温暖化対策の観点からは、地球温暖化対策実行計画である「ゼロカーボンシティよこすか 2050 アクションプラン」を 2022 年3月に策定し、2050 年までにカーボンニュートラルを達成することを掲げている。そのなかで、ブルーカーボンの取り組みを二酸化炭素吸収源対策として特に重点的に進める取り組みを「重点プロジェクト」として位置付けている。 このプロジェクトを推進するため、市、市内研究機関、市民団体、長井町漁協を含む市内漁協など多様な主体が参画する「横須賀市ブルーカーボン推進検討会」を設立し、横須賀市全域における磯焼け対策やブルーカーボンの創出について、検討を行っている。これらの取組によって、一部のエリアではカジメ場の回復が確認され、当該地区でのブルーカーボン生態系の再生と保全、ひいては生物多様性の向上や地球温暖化の抑制に貢献している。
クレジット取得理由	横須賀市ブルーカーボン推進検討会では、今後も市内全域でのブルーカーボン拡大を目指して、藻場造成やそれに伴うモニタリングを実施することとしている。これらの取り組みを継続して行うためには予算の確保が必要であり、その資金源として J ブルークレジットの取得を目指している。J ブルークレジットによって得られた資金については、上記の横須賀市のブルーカーボンの拡大・維持するための活動資金として活用していく予定である。
クレジット取得後の計画や見通し	水産振興の推進のため、継続的に藻場の保全活動を行い、豊かな海の生態系の回復を図る。その結果として、ブルーカーボン生態系による二酸化炭素の吸収源の拡充、さらには、ゼロカーボンシティの推進への寄与も目指す。
申請対象期間に実施した活動の概要	〇モニタリング ①2024年7月23日 ②2024年9月10日 〇食害生物（ウニ）駆除活動 ②2024年6月4日 ③2024年6月27日 ④2024年7月4日 ⑤2024年7月25日 ⑥2024年8月6日

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】アラメ場 【構成種】カジメ
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	【面積】 0.76187(ha) 【面積の算定根拠】 別紙参照：CO2吸収量算定に関する資料 【面積の資料】 添付ファイルなし
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 4.2 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目1	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式1 【算定結果（吸収量）】 3.199(t-CO2)
	⑥確実性の評価	【対象生態系面積等の評価】 90% （面積：0.76187(ha)×評価：90%） 【吸収係数の評価】 72% （吸収係数：4.2×評価：72%）
	⑦調査時に使用した船舶の情報	【船舶の種類】 船外機船（11kW / 15PS 程度） 【台数】 1隻 【稼働時間】 5.00(h) 【出力】 11.00(kW) 【燃料の種類】 ガソリン 【CO2排出量】 0.027(t-CO2)

項目1	⑧ベースラインの設定方法妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 2013 年から藻場保全活動に着手したが、それ以降も磯焼けが進み、2020 年では、黒砂地区、暮浜地先ともに藻場は完全に消失した(図4-1)。以上のことからベースラインについては昨年度申請同様ゼロに設定。 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の吸収量	2.046(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	2.0 t